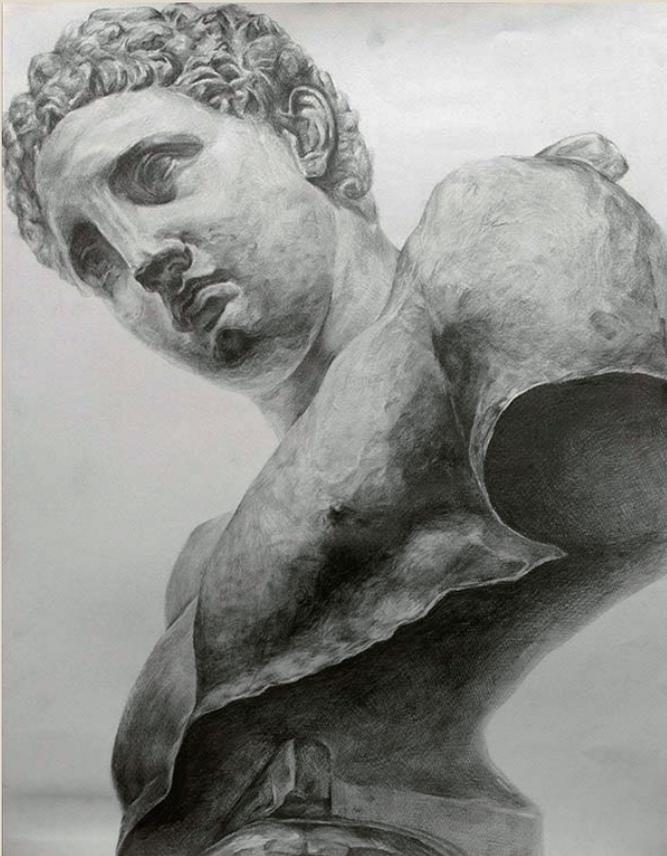


高校生デッサンコンクール2022 オンライン展示

大賞



東北生活文化大学高等学校 3年
佐々木 柁斗

審査員長講評：佐藤 一郎

自分の座る位置も含め、ダイナミックに遠近感が出る位置を選んだということは、相当経験があるのだろうなというのがわかります。しかし形態というものをどのように理解すれば良いのかと考えた時、この作品を描いた方は、「立体は風船のように膨らんでいる。だから膨らんでいる形を描けばよい。」という意識が若干強いように感じます。そうすると凸面の強調に比べて、凹面の形態感の捉え方はどうなのかを今一度考える必要があります。見上げた時の底面の形態の捉え方がブリキ板のようになっている部分があります。このようないわば凹面における形態をおおまかな見方で捉え、細部描写のみに頼らずにできれば今以上に良くなると感じました。

審査員講評：佐々木 成美

提出された全てのデッサンからそれぞれの観点が感じられ、優劣つけ難いコンクールでした。しかしその中でこの作品は最初から極めて印象強く、抜きに出て目立っていました。それは迫力を出すための、ダイナミックな構図やコントラストの強い光と影の設定など、演出が細かに計画されているからだと思います。またそういった演出を作者の確かな技術が支えていました。

準大賞



東北生活文化大学高等学校 2年

齋藤 亜弥

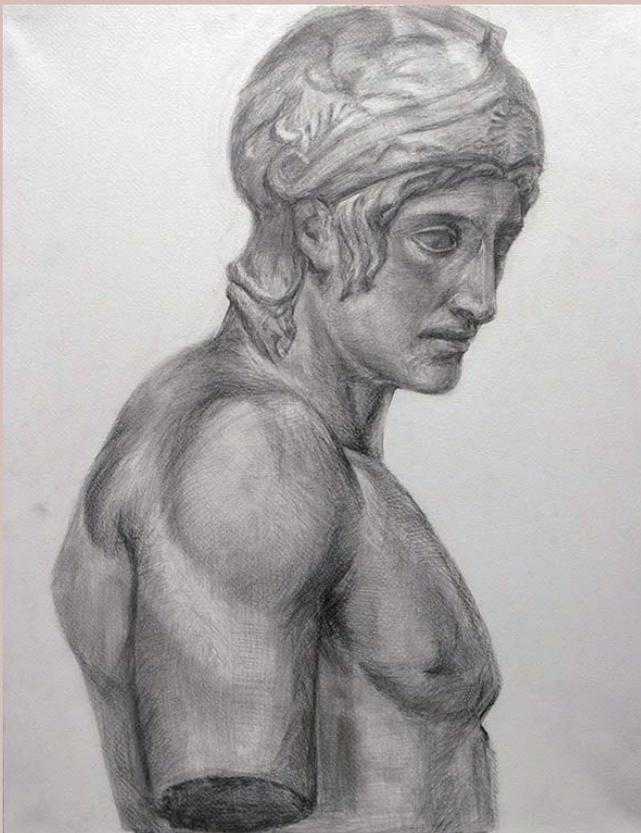
審査員長講評：佐藤 一郎

光と影のダイナミックな関係性がよく捉えられている作品です。頭の部分の明るさと暗さのぶつかり合いと反射光の様子、顔の部分と胸の部分の大きな違いをよく観察しているのでダイナミックなブルータスが描けていると感じます。その意味で、もう少し、ほんの少しなのですが、顔の形態感がより観察できると長所がより直接的に見えてくると思いました。

審査員講評：鈴木 専

光と影のコントラストが美しい。像の重さや大きさが伝わります。色幅も良い。多少形のあやしいところはあると思いますが、よく観察して素直に描いていると思います。しかし台座は像を支える強さには見えません。

優秀賞



宮城県宮城野高等学校 2年

木浪 暖日

審査員長講評：佐藤 一郎

中央寄りの全光に近いところにある難しい石膏像を丁寧に描いているのがわかります。意外とこういう場合は凸部と凹部が明るくなるので、ここが明るくてここが暗い、という単純さでは描けないと思います。この作品は全光の場合の秩序というのをそれなりによく観察している手堅いデザインだなと思いました。そういう意味では今回の入賞作品の中で一番まとまっているなと感じました。

審査員講評：北折 整

光による明暗を注意深く捉えると共に、手前と遠くが意識的に描き分けられていて、立体感・空間感が良く表現されています。ただし、形が後ろに回りこむ輪郭周辺の描写をもう少し丁寧にすると良いでしょう。

佳作



古川学園高等学校 2年

末永 愛果

審査員講評：佐々木 成美

色味の綺麗なデッサンだと感じました。石膏像の白さを大切に、ハイトーン領域の中で細かに描写をすすめています。しかし像全体の量感が弱い印象もあり、像そのものの重みや彫刻としてのまわり込みも意識して表現してみてほしいと感じました。



宮城県宮城野高等学校 3年

森 史佳

審査員講評：伊勢 周平

形態の輪郭を何度も修正しながら、対象を観察しようとする姿勢が見えて良いと思いました。ドローイングは平面への痕跡そのものなので、積極的に筆を振るうのは大切です。一方で画面の観察も忘れてはなりません。毛髪部分や服の襞は複雑ですが、輪郭線で形を起こした後にその線が明暗の調子になればより良いと思います。



宮城県宮城野高等学校 2年

馬場 祐澄乃

審査員講評：伊勢 周平

明-暗の階調が豊かなデッサンだと思います。特に、明部であれば兜部分のレリーフの微妙な凹凸、暗部であれば首筋部分の影から右胸部に落ちた頭部の影の移り変わりが、よく観察され、調子の幅で表現されています。形態に沿った鉛筆の筆触の入れ方も入賞作品の中では特に丁寧だと感じました。空間の差があるキワが霞んでいる部分が所々ありますが、演出に依らずに持ち前の観察力で表現できると思います。



宮城県宮城第一高等学校 3年

浅川 瑞月

審査員講評：北折 整

タッチの重ねや描き分けなどに力強さがあり、好感が持てます。鉛筆の濃淡にも幅があり良いのですが、中間の調子をもう少し工夫すると良いでしょう。形は良く取れていますが、目鼻口のバランスが少し狂っています。



東北生活文化大学高等学校 1年

仙石 まゆの

審査員講評：鈴木 専

眼前に迫る右肩越しに立つ頭部の見え方がとても心地良いです。反射光を丁寧に捉えたことで、頭の傾きや肩との空間を表現出来たと思います。裏側や台座など陰の位置関係は怪しい、とは言えしっかり見て描ける人です。



東北生活文化大学高等学校 2年

遠藤 ありす

審査員講評：鈴木 専

平テープを取り入れて、頭や胸や台座の位置を意欲的に表現しようとしています。熱心な描込みの反面、石膏そのものが白いものではなく、灰色のものに見えます。白いものをどう描くか？ここまで描けるなら描けます。



東北生活文化大学高等学校 3年

平井 まこ

審査員講評：佐々木 成美

ラオコーン頭部周辺の空気感が美しいと感じました。トーンが豊富で、手前から奥にかけてのコントラストを繊細に描き分け空間を作っています。鉛筆の使い方も、寝かせるようにトーンを作ったり、立ててカリカリと発色の良い色をのせたりと豊富に見えます。ただ頭部に比べ、身体周辺の表情が希薄なのが気になりました。

審査員長総評

この度の「高校生デッサンコンクール2022」は昨年に引き続きテーマが石膏像ということもあり、皆さんの作品もずいぶん気持ちが入っていたように感じました。いろいろな、その人なりの物の見方で、あるいは石膏デッサンならではの長期間の経験を積んだ作品が多く出てきたように思いました。

私が審査を通して気になった作品について触れたいと思います。仙石まゆのさんの作品はごくごく素直で良いなと思いました。光の秩序というものを反射光も含めて丁寧に追っているという点と、顔の部分と体の部分の大きな光の変化の違いを結構見ていると評価できます。木炭を使う技術的な面はまだ未熟ですが、この生徒はしっかりした自分自身の物の見方という「目」を持っているのできっと伸びると思います。末永愛果さんの作品は、明部と暗部とのせめぎ合いで、「こっちがちょっと明るい、こっちにちょっといくとちょっと暗い」という暗さと明るさの「キワの鋭さ」で描くのが基本になっているデッサンです。全体に光が当たって暗くなって、という大きな陰影の動きと明部との関係性がやや薄くなっているという気がしました。ただそれが原因でカラッとした表現にもなっていて、今回の出品作品の中では類例がなく、ユニークな作品だと思いました。浅川瑞月さん、遠藤ありすさんの作品は黒いテープが巻き付いてあります。異素材の描き分けや画面の分断などの要素の多さで描きにくいモチーフと言えるかもしれません。しかし陰影ということを考えれば、物自体が光の方向とずれることで暗く見える場合の「陰」と、ある物の影が他の部分に投影されて暗くなっているという場合の「影」があります。そのような陰と影の関係性をみるには実は描きやすいのかも知れないですね。平井まこさんのラオコーン。たしか、ルーベンスも若い頃にラオコーンを描いていたと思います。僕は浪人の頃、なかなか描きにくい石膏像だなという印象が強かったです。下顎の形態の描き込みがもう少し丁寧に追えると良いと思います。馬場祐澄乃さんの作品はグレーの諧調が豊かな作品でした。画面下の像と台座との設置面について、その形態と、画面が切れるギリギリの構図について意識して描けるともっとよくなると思います。

技術的な面で振り返れば、パンや練りゴムなどの「消す道具」の使い方があげられます。それは消しゴムを使う時のように「消す」という意識で描き直すためのものではなく、白いコンテで「描く」ように一旦付けた調子を抜くことで、調子の幅をより作れるようになるということです。このような技術力が伴うと、物の見方がしっかりしている人は飛躍的に上達・進歩するのではないのかな、という印象を強く持ちました。

座談「写真をトレースすることについて」

鈴木：もしかしたら写真を見て描いてるかもね。

佐々木：この作品がもし形を、写真をトレースして描いているなら少し悲しいけど、そうでないならいいなと思う。

伊勢：パースのつき方が独特になりますからね。

佐藤：いや、写真というのは焦点が一点だけど、人間がものを見るという場合は一点透視のようだけど、実際には視点が動くんだよ。だから動くってことで石膏像が描けるかどうかでことにつながるんで、写真のトレースも勉強の一つなんだけど、やっぱり実物の石膏像を見て描くっていう訓練というか修練、それはすごく大事な気がするね。

伊勢：大きな差がありますね。とりあえず今は「もしかしたら」という話ですが。

鈴木：まあね、たまに学生もスマホや写真をこうやって見ながら描いているからなあ（笑）予備校とかではどうなんでしょう。

佐藤：え？石膏デッサンをスマホ見て描くの？

佐々木：描く子はいますね。予備校ではやはり注意するでしょうけど。

佐藤：それはそれで良い絵ができる場合もあるんですけどね。

伊勢：ネオ・ラオホ的なね。ピタッとした平面がそこにあるような描写は写真を見ながらでしょうね。そういう面白さはある。そういうものだと思って見るということで良い気がするんですけどね。

佐藤：僕はね、いろんなことやった方がいいと思う！ だから写真を写すってことも一つの勉強だけど、実物を見て描くってことも大事だし、どっちかを選ぶっていう問題じゃないんだね、今。